



第 51 号  
平成 25 年 2 月

発行 NPO法人小野川と佐原の町並みを考える会  
佐原町並み保存会  
お問い合わせ 佐原町並み交流館  
電話 0478(52)1000

日本の原風景・さわらー持続可能な社会の実現へむけてー

# 「復興に感謝する会」盛大に行われる

## ☆秋「佐原の大祭」二日目☆

「震災復興支援に感謝する会」が昨秋、佐原の大祭の中日、十月十三日（土）午前十一時より十二時まで佐原町並み交流館二階で行われました。

まずNPO法人「小野川と佐原の町並みを考える会」の高橋



ウオッチデいの主会場

賢一理事長が感謝の挨拶と活動報告を行ない、香取市長・宇井成一氏と文化庁文化財部長・石野利和氏からの来賓ご挨拶に続いて、今回の佐原復興支援にご尽力をいただいたワールド・モニュメント財団副理事長のヘン



祭りを見るWMFとアメックスの皆様

リー・エンジー氏には、持続的の社会を守るために努力して

いるNPO法人「小野川と佐原の町並みを考える会」の活動を高く評価していただいた。また、二十万ドルの拠出を申し出ていただいたアメリカン・エクスプレス財団の日本事務局長・村田弦世氏は「これからも佐原との友好と支援・連携とを途絶えさせず、よりの発展させて強固なものにしていきたい」と今後も佐原を支えたと約束された。

十名の支援者の座談会に続き、支援の対象となる有形文化財所有者を代表し「正止」の加瀬順一郎氏と「福新」の平塚智子さんよりお礼の言葉があり、無事に「感謝の会」は終了しました。

昼食後、福新一階より祭を見物、続いて旧西宮跡に復興・修理された土蔵と洋館で震災写真展を恒祭。夕刻六時から感謝の垂れ幕の披露、歓迎の手踊り、記念撮影をして感謝の一日が終わりました。



町並み復興支援会  
「さわら」の加瀬順一郎氏と「福新」の平塚智子さん



「さわら離舟」とは、内裏雛に扮装した人々が、雅楽の演奏と共に、優雅に小野川を下り下ります「水上離舟」です。

四月六、七日の二日間、一日三回、運転されます。

同時に行われる、「伊からハイキング」にあわせて、「伊能忠敬記念館裏の「町並み観光駐車場」では、小江戸佐原「春まつり」が開催され、山車の展示、下座演奏と手踊り、フラスバンドの演奏、および地域の物産販売が行われます。

四月六日（土）、七日（日）

「さわら離舟（ひなぶね）」

国内だけでなく、世界にむけて佐原を発信するためにアクセス拡大が期待されます。

画面には、今の佐原の行事、交流館内の展示が豊富に盛り込まれています。

フェイスブック開設

NPO法人「小野川と佐原の町並みを考える会」は、ホームページに次いで、この度、フェイスブックを開設しました。

これは、パソコン、ケータイやスマートフォンからアクセスできる世界で八億人以上のユーザーがあるといわれる巨大なサービスです。

## 佐原の千葉県指定有形文化財の建物を造る

### ドール・ハウス作家・橋本京子さんに聞く

—(こ)つ(こ)つと一年に一棟、心を込めて—

昨年未日KTVで、数回にわたり放映されて、その手づくりの暖かさが大きな話題となった橋本京子さんは市内浜宿にお住まいです。十八年ほど前にドール・ハウスの魅力にひかれ作り始めました。



▶ミニ家並みの前の橋本さん

佐原町並み交流館の二階で教室を開いた際、小林館長さんに「展示会」の開催を勧められました。最初の作品は、江戸・天明二年(一七八二)創業のそば屋「小堀屋本店」。続いて「福新呉服店」「佐原三菱屋」忠敬橋角の「中村屋商店」「正文堂」と続きました。

実際の建物のように土台・柱や梁に木材を使っている重くなるので、省路や誇張を加えながら薄い軽い材料で壁や屋根を張ります。建築模型とは少し違い遊びの部分もあります。

高さを決める側面図を基本にして設計図を描きます。人通りの多い場所では歩調で家の周囲を測りました。屋根の形は「グーグル」の上空写真を利用したりもしました。

屋根瓦は、粘土で作った原形をシリコンで何枚も取り取りして、一定の面積に並べて作った板を屋根全体に貼ります。

カット。壁面となる板上に貼る一枚ずつにミリ幅の切口を入れるという細かい作業です。

ドール・ハウスの建物は、内部の生活も見せるのがポイントですから室内に置く小物類に苦慮するそうです。建物、小物類とのバランスを考え、着物の模様や履物はコンピュータを使い縮小して、コピー用の布にプリントします。「正文堂」の昇り竜は、彫刻は無理なので粘土で作りました。

現在、千葉県指定有形文化財「中村乾物店」を製作中です。

## 匠の技の小箱に 支援金を募る

香取市津宮で建具屋を営む本宮三千男さんは、震災以来一年以上にわたり、作業場の机の上に密閉された募金の小箱(写真左下)を置き、お客さんが来るたびに支援を呼びかけました。



仕事場の本宮さん

六十歳を過ぎてから、建具の仕事に少々余裕ができたのを機に指物細工を始めたそうです。作品が売れた時には、自らも幾分かを箱に入れて、昨年十一月、箱は開封せずそのままを交流館まで届けていただきました。

作業場に置かれています。本宮さんの指物細工の作品の一部が佐原町並み交流館内に展示されていますのでご覧下さい。

## 佐原町並み交流館

### 入場者数

平成22年度(4月～3月) 122,833名  
平成23年度(4月～3月) 74,899名  
平成24年度(4月～1月) 78,728名  
東日本大震災の前年と比べると、ほぼ40%減となりましたが、今年度は8万人台にまで達すると予想されます。

### (平成24年度)

町並み案内ボランティア活動状況		
	案内回数	案内人数
1月	25 (回)	865 (人)
2月	22	507
3月	22	643
4月	22	605
5月	22	901
6月	58	1986
7月	16	322
8月	10	160
9月	17	689
10月	45	1931
11月	51	2528
12月	18	582
合計	328回	11,719人

### 平成24年度千葉県内小学校

#### 総合学習案内(秋季)

10月	11校	1,013人
11月	17校	1,594人
12月	5校	364人
合計	33校	2,971人

☆☆☆☆☆  
平成23年1月は736人、2月は829人と例年並みであったが、東日本大震災発生の3月は6回(110人)、4月は3回(80人)と激減した。年度合計でも242回(7531人)と震災の影響の大きい一年であったが、今年度は前年の2倍に近く、実際に佐原を訪れた観光客の実数は、この数倍と推測できる。

# 第八回・さわら雛めぐり

## 今年、旧暦で

### 「さわら雛めぐり」が「佐原おかみさん会」と佐原観光復興推進協議との共催で行われます。

今年、時期を旧暦に移して行われ、今年、旧暦正月三日は、西暦では四月十二日に当たります。

桃の花が咲く三月下旬から四月上旬が、雛祭の季節感に合うように、週末の四月十四日まで期間を延長して、本来の季節感を存分に味わうこととなります。

この期間中、四月六、七日には、「さわら雛舟」「駅からハイキング」や小江戸佐原「春まつり」が行われます。

## 町並みと伝統の「ひな祭り」見学 茨城県桜川市真壁町で研修

### \*おもてなしの心も学ぶ\*

平成二四年度 佐原町並み研修旅行は、さる二月十六日(土)総勢三三名、茨城県桜川市真壁町で行われた全国町並み保存連盟「第三回関東ブロック会議」に参加し真壁町町並み見学を行いました。

バスが高上(たかじょう)町駐車場に到着後、冷たい筑波風の吹く中、地元ボランティアの案内で、浅野家旧領地でもあった江戸時代の町割りを残す重伝建地区を歩きました。東日本大震災の影響はまだ残っていますが、復旧は着々と進んでいるようです。

町の要所には中学生が立ち、観光客と元気に挨拶をかわしながら道案内をしている姿が目立ちました。

「ひな飾り」をする家々では、戸を大きく開けて、座敷には和服の女



真壁伝承館の前で

性が降り丁寧の説明をしていました。伝統ある「ひな祭り」の「おもてなし」の仕方には、かつて表彰されたことがあるという伝統の姿を見ることが出来ました。

昼食後、町の中心にある「伝承館」で開かれた全国町並み保存連盟「第三回関東ブロック会議」に参加し、他の地域からの沢山の参加者と共に「小野川」と佐原の町並みを考える会も紹介されました。

他地区との交流と幾つもの「おもてなしの心」を学んだ研修でした。

町並み交流館館内展示の経過  
(平成二四年六月以降)

〇八月四日(土) 佐原の光景写真展 特別企画・日本の至宝・香取地宮 三軌会・池谷眞男展

〇七月二九日

身近にお茶を楽しむ会 国際交流協会

〇八月四日(土) 北澤聖江(朱葉会)の展

第三回「佐原・大祭・母と子と」

〇九月九日 県民芸術劇場・ニール・ハート

## さわら雛めぐり

第八回

2013年 2月9日(土)～4月14日(日)

期間延長のお知らせ

〇四月六日(土) さわら雛舟(小江戸佐原) 〇四月七日(日) さわら雛舟(小江戸佐原)

〇四月八日(月) さわら雛舟(小江戸佐原)

〇四月九日(火) さわら雛舟(小江戸佐原)

〇四月十日(水) さわら雛舟(小江戸佐原)

〇四月十一日(木) さわら雛舟(小江戸佐原)

〇四月十二日(金) さわら雛舟(小江戸佐原)

〇四月十三日(土) さわら雛舟(小江戸佐原)

〇四月十四日(日) さわら雛舟(小江戸佐原)

- 〇二月二日(日) ニー・オーケストラ千葉
- 〇三月五日(土) 香取市さわら軒先コンサート
- 〇三月十日(木) 一〇ケストラ千葉
- 〇三月十五日(土) 第二回橋本健司展「佐原の大祭全山車と町並み水彩画展」
- 〇三月二十日(木) 橋本京子・ドール・ハエウスの世界
- 〇三月二十五日(土) 色鉛筆で描く佐原の町並み
- 〇三月三十日(木) 第二回古河博樹作品展
- 〇四月五日(土) 日本盆栽協会水郷佐原支部
- 〇四月十日(木) 平成二四年度、秋季盆栽展
- 〇四月十五日(土) 佐原の観光と祭り写真コンクール
- 〇四月二十日(木) 平成二四年、入賞作品展
- 〇四月二十五日(土) 本宮華水(書画会館) 席上揮毫
- 〇五月一日(日) 平成二五年一月十六日
- 〇五月五日(木) 平成二四年十二月十九日
- 〇五月十日(土) 平成二四年度、絵になるまち佐原絵画コンクール展覧

〇平成二四年十二月三日(日) 県民芸術劇場・ニール・ハート

一〇ケストラ千葉 香取市さわら軒先コンサート(心に響くクリスマスコンサート)

〇※「さわら」町並み・お正月

お正月飾り 平成二四年十二月二八日

〇平成二五年一月二日

※壽・獅子舞と佐原囃子

平成二五年一月五日(土)

※特別企画 佐原高校写真部・書道部作品展「佐原の四季」

平成二四年十二月二八日

〇平成二五年一月二日

主催・佐原おかみさん会

## 会員や関係者にアンケート調査

一月三十一日を締め切りとし、会員にあてに「アンケート」用紙が送付されました。

NPO法人「小野川」と佐原の町並みを考える会」は、是足以来、着実な活動を続けてきました。しかし、香取市は、東日本大震災によって甚大な被害を受けた結果、観光客が減少しています。以前のような活気を取り戻すためには各委員会、会員の積極的な意見の交換が期待されています。アンケート結果については次号で報告します。

なお、W.M.F. ウォッチデイ感謝祭を記録したDVDもご覧下さい。(会員あて配布)

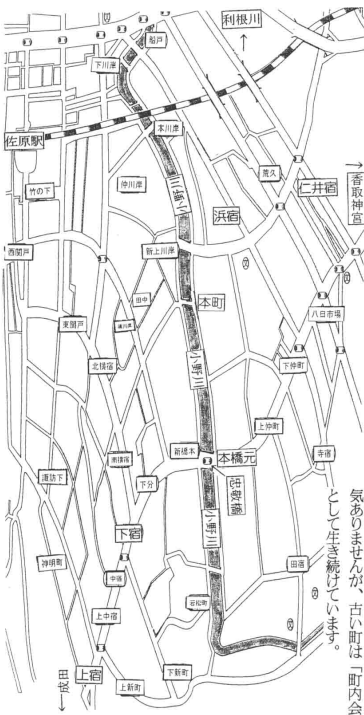
### 町並みを歩いて(その七)

## 重伝建地区の隠れた魅力を発表

香取街道と小戸川沿いに沢山の町内が密集しています。  
江戸初期、上宿、下宿、本宿、浜宿、仁井宿の五組を四人の地頭旗本

が分割して支配。中期には本宿十町内、新宿十四町内ができました。後期、町の勢いが盛んになると地頭所から町の分割を命じられ、街道や川

沿いに町内がさらに増えました。勢いのある町内が祭の山車を作り曳き廻しました。かつては、対岸の町内から山車を借り受け、町内で独自に作った飾り物に乗せ曳いたりした例もありました。  
現在、佐原イ、ロ、ハと地番は味気ありませんが、古い町は「町内会」として生き残っています。



### もつと見学時間

佐原の歴史、町並み、人情、全てがよかった。ガイドさんの生き生きとした説明が印象に残りました。屋敷の時間に一人で町を歩いたが、もつと時間がはしかなかった。次回は家内と一緒に観光に来たい。(千葉市生涯学習センター参加者)

哀調漂つ町・佐原  
素晴らしい佐原。哀調漂つ佐原

## 観光案内に感謝の礼状(その9)

原隆子の音と共に見事な解説を私ども「タヌタヌ・ガイド」たちフレセントしていただきました。今後の忠敬さんガイドの実際に数々のエピソードや知識を生かします。  
(江東区・福住ガイドクラブ)

また研修で来ます  
体調の悪いところをすみませ

## 帰途、話に花が咲いた

帰途の列車の中で今般の案内について話に花が咲きました。どうか健康には十分留意され

### 町並み案内(その十二)

## 人に感謝される喜び

平成二二、二三の二年間にわたり「町並みを散策しながら地元を築しむ会」講座を行い、二四年度案内実践を経て育った数人の方に話をうかがいました。

研修から巣立った人たち  
○鈴木美津子さん  
実際にやってみるとなかなか難しい。もつと勉強して引き出しを大きくしなげれば。  
○平野光男さん  
自分ではわかっていないつもりでも、他人に説明となると難しい。思っていることの十分の一も伝えられませんか。  
○石毛隆さん  
小学生から沢山の礼状をもらうと、またやろうという意欲がわきます。  
○玉遊功さん  
つたない案内だったのに、最後に「ありがとうございました」と言っていただけたりするとうれしいです。  
○鈴木美津子さん  
小学生を案内した時に「ありがとう」と言われると、うれしかった。  
○平野光男さん  
いちばん最初に十数人の方を案内から大きな拍手をいただいた時には感動しました。ね。  
まだまだ未熟なのに、お客さんはこんなに喜んでくれている。案内をして良かったと思えました。

### はじめは

(写真の右から)

○石毛隆さん

やってみると、頭の中にあることの半分も話せませんでしたね。

○玉遊功さん

とにかく緊張します。

○鈴木美津子さん

教員で慣れているはずが、初めての人たちと話をすることがこれほど難しいとは。



○石毛隆さん

小学生から沢山の礼状をもらうと、またやろうという意欲がわきます。

○玉遊功さん

つたない案内だったのに、最後に「ありがとうございました」と言っていただけたりするとうれしいです。

○鈴木美津子さん

小学生を案内した時に「ありがとう」と言われると、うれしかった。

○平野光男さん

いちばん最初に十数人の方を案内から大きな拍手をいただいた時には感動しました。ね。

まだまだ未熟なのに、お客さんはこんなに喜んでくれている。案内をして良かったと思えました。

案内をして良かったと思えました。

案内をして良かったと思えました。

案内をして良かったと思えました。

案内をして良かったと思えました。

案内をして良かったと思えました。

案内をして良かったと思えました。

案内をして良かったと思えました。

案内をして良かったと思えました。